

神戸運輸監理部職員向けバリアフリー研修を実施しました

我が国では、オリパラ東京大会を契機とした共生社会の実現に向け、令和2年5月にバリアフリー法を改正し、「心のバリアフリー」に係る施策など、ソフト対策等の強化に取り組んでいます。このような状況のなか、私たちには、国民のひとりとして、また行政機関の職員として、障がい者や高齢者等の特性を理解するとともに、社会にある障害（バリア）を意識し、日常生活や交通事業者等への業務上の指導など、様々な場面における適切な行動が求められています。

神戸運輸監理部 企画推進本部 交通みらい室では、障がい者や高齢者等への理解を深めるとともに、基本的な接遇や介助技術の習得を目的として、障がい当事者の方のご協力を得て、毎年「職員向けバリアフリー研修」を開催しています。

今年度のバリアフリー研修は、12月9日（月）と1月27日（月）に実施し、車いすユーザーである宮野谷義傑（みやのや よしひで）さんを講師としてむかえ、車いすに関する事や、「車いすから見える世界」について、講義を行っていただきました。

宮野谷さんは、東京と大阪を拠点に、アマチュアオーケストラの指揮のほか、小中学校や福祉施設などでの演奏活動や講演も積極的に行われている方です。

まず、宮野谷さんより、車いすの種類や、車いす利用者の視点では周りがどのように見えているかについてお話いただきました。職員からは、「ご自身の経験を踏まえつつ事例に富んだユニークな講義で、大変分かりやすかった」「対話形式で講義を進められていたのが非常に良かった」等の感想がありました。



【バリアフリー研修の様子】



【デモンストレーションの様子】

次に、神戸市中央区社会福祉協議会の方にご協力いただき、車いすの使用方法や、段差の上り下りのデモンストレーションを行っていただきました。その後、職員も車いすに乗り、段差の体験や、庁舎内の設備の利用体験、庁舎周辺の歩道を通行（自走・介助）する体験を行いました。

職員からは、「実際に体験してみないと実感できないことが多々あるため、体験学習は有意義だった」「普段考えているより多くのバリアがあることを改めて認識できてよかった」等の感想がありました。



【車いす体験の様子】



【車いす体験の様子】



最後に、職員から寄せられた質問に対して宮野谷さんにお答えいただくとともに、講義を通して伝えたいことを改めてお話しいただきました。

職員からは、「講師の方が親しみやすく、気軽に質問できる研修の雰囲気だった」「普段から様々な方の目線に立って物事を考えて行動していきたいと思った」等の感想がありました。

全体を通して、職員からは「身近に車いす利用者がいるが、今回の研修で知識が増えたことにより、自分も少し役に立てるのではないかなと思った」、「困っている人がいたら勇気を持って声をかけ、なぜ困っているかを知り、どうしたら解決できるかを考えて接していきたいと思った」等の感想がありました。

交通みらい室では、今後も様々な取り組みにより、「心のバリアフリー」の推進を図っていきます。

（企画推進本部 交通みらい室）